

## 海域の概要

本湾は、太平洋に面した湾で、湾東部は県下有数の漁港である田辺港が存在します。沿岸の黒潮の影響を受け、湾内には多種多様な海洋生物が生息しています。



## Specification

### 諸元

湾口幅：4.05 km

面積：17.95 km<sup>2</sup>

湾内最大水深：2.8 m

湾口最大水深：2.8 m

閉鎖度指標：1.05

備考：環境基準類型指定水域

## Location

### 範囲または位置

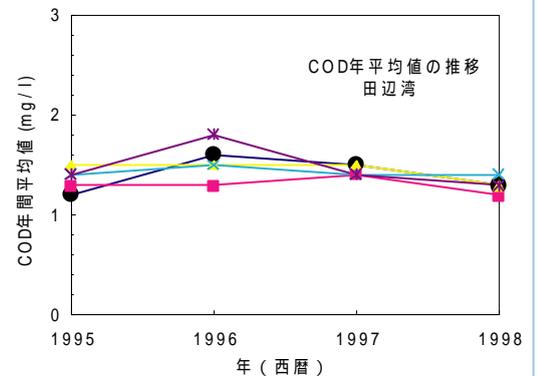
和歌山県田辺市斎田崎と西牟婁郡白浜町番所ノ鼻を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。



## 環境

田辺湾は、黒潮の影響から湾口部の水質は良好ですが、湾奥の支湾では、河川や養殖業、生活排水の負荷による水質が悪化し、貧酸素水塊の発生や赤潮の頻発による湾内漁業への被害が度々起こっています。COD年平均値は概ね1.2mg/前後です。

底質は、海岸線付近は岩礁や砂質ですが、湾の深いところでは泥質となっています。



## 自然

田辺湾は、景勝地として知られる天神崎や様々な生き物の生息で知られる神島、蓮根化石、ひき岩郡等の景勝や数々の天然記念物をもつ自然豊かなリアス式海岸です。

湾内には、暖かい海の代表といえるサンゴ類約60種のほか、磯魚、ウニ、貝類等の多くの生物が生棲します。また、湾奥部の岩礁にはガラモ場も分布しています。

ナショナルトラスト運動の先駆けとして有名な「天神崎」は、緑豊かな20haの丘陵部と干潮時に顔を出す21haの平らな岩礁で形成され、陸の生物としては亜熱帯の昆虫、カスミサンショウオをみることができます。

また、鳥の巣泥岩岩脈は湾内の小半島で、この岩脈は第三紀層を貫いて噴出した水成岩脈であり、地質学上珍しく、神島の島内には貴重とされる珍しい植物が繁茂していることから、博物学者「南方熊楠」の研究舞台となったことで知られ、国の天然記念物にも指定されています。



泥岩岩脈と神島

## 文化歴史

田辺湾周辺には、縄文時代の土器に始まり紀元5、6世紀頃の小古墳や岩陰遺跡（漁労関係の豪族の墓）があります。平安時代から熊野参詣の入り口として栄えましたが、近代では陸の孤島と言われ、鉄道の開通まで海運に頼っていました。戦後（1936年）は海外引揚港に指定され、多数の引揚者が上陸しましたが、その同年末に南海道大地震がおり、66名の死者が出ました。その後、昭和30年以降の経済成長とともに発展し、現在は人口約7万人の観光地となっています。

## 産業

古くから紀南の要衝であった田辺市では、人、物の集積と共に商業が栄え、安藤氏の城下町の頃より、保護政策のもと市の代表的な産業として発展を遂げてきました。

海と山に囲まれた温暖な気候のもと、梅、みかんに代表される農業や黒潮の恩恵を受けた豊富な魚種に恵まれた漁業が地場産業となっています。湾内では、ハマチや貝類の養殖が盛んに行われています。また、トローリングから磯釣りまで様々な釣りが楽しめるほか、「日本の水浴場88選」の白良浜をはじめ各地で海水浴、スキューバダイビング、ウインドサーフィン、ヨットなど、数多くのマリンスポーツを気軽に楽しむことができ、景勝地も多いことから観光も基幹産業となっています。